

福島県での水害被害について

去る8月6日に金山町、7日に只見町で被災家屋の泥だし作業に従事してきましたので、その状況をお知らせいたします。

○被害概況

7月末に発生した新潟・福島豪雨の被害は、地域にかつてない被害をもたらしました。只見町では、床上浸水100棟、床下浸水250棟、家屋等流出10棟、金山町では、床上浸水92棟、床下浸水17棟、全壊家屋7棟、その他非住家にも多数の被害がでています。(8月3日時点：VCニュースより)

○金山町川口地区

金山町では最も多い25棟が床上浸水となった地区。すぐ西側に只見川が流下している、川幅は相当広く対岸までは150m程はあるだろうか。対岸の護岸貼りブロックはほとんどが洗掘されて残っている面もまだらで、生活用道路の橋は流され、橋脚のみが残されている。

作業させていただいたお宅は木造2階建てで1階が前面道路よりも4段(約1m)高いが、屋内は1.2m程度まで浸水。

ボランティアは、栃木からの8人と福島県内の2名の計10名(内女性2名)。

床下が高いため床板を部分的にはがし、床下にもぐって泥だし作業に当たった。前日にも作業に入っていたが、台所も含めて7部屋ある内の1部屋部分しか終了しておらず、引き続きの作業となった。粘土のようなクロボク土で水分をたっぷり含んだ重い泥で、湿度と高温の中で体力を要求され、また、無理な姿勢を強いられる作業となった。

9時30分から15時30分までの作業で3部屋程度までしか終了できず、翌日も引き続きボランティアの投入が必要となった。

○被災世帯でのお話

この家はこれで3度目の床上浸水、前回は昭和44年だったがそのときは今回より水位は低かった。44年のあとに堤防がかさ上げされたが被害を受けた。

○只見町八木沢地区

集落の東側を只見川が流下し、叶津川との合流点にあたる。集落27世帯すべてが床上浸水。国道沿いの集落と只見川の間に広がっていた水田はすべて土砂の埋没。

前日の金山の集落と比較すると土砂の量が格段に多く、住宅周辺の土砂を重機で排除していた。

作業させていただいたお宅は木造2階建てで1階が屋根まであと30cmのところまで浸水。

ボランティアは、当初栃木からの5人お昼から栃木2名と山形からの3名増で10

人（内女性4名）。

まず、前日のボランティア作業で残っていた納屋（車庫）の泥だしのあと、母屋の床下の泥だしのために床板を全面的にはがし、床下の泥だし作業に当たった。台所を含めて4部屋と玄関部分の内、2部屋強を作業したが、金山より砂質の泥で前日より作業しやすかった。まだ2.5部屋程度残ったため、翌日も引き続きボランティアの投入が必要となった。

○被災世帯でのお話

76歳の男性（奥さんの実家であるため手伝いに来た。家の所有者は福島氏に住んでおりこの家は親類に貸していた。所有者も作業に来ていたが、原発被災地へ行く用があるため昼で戻った。）

只見川は、ダムができるまでは毎年大きなサケやマスが遡上してきた。橋の上から大きなヤスでいくらでも魚をつくことができた。このあたりで魚を買う習慣なんてなかった。川でいくらでも魚が取れたから。

でもダムができるときに5千万円で認めてしまった。発電用ダムであっても水害が減ると言われていた。それがダムの放流でこんな大きな被害を受けた。記録的な大雨だというのが、もっと予測して計画的に放流していたらこんな被害にはならなかっただろうと思う。

（上流に只見ダム、田子倉ダム、大鳥ダム、奥只見ダムがあり、下流に滝ダム、本名ダム、上田ダム、宮下ダム等がある。水力発電所は16箇所。そのため魚の遡上ができない。）

29日の夕方は、自分の家の前（只見町の中心部）では、玄関先まで水がきたがそれ以上には増えていなかった。そのため川を見に行き行って写真を取っている人もいた。でも、避難指示の放送のあとに一気に水が増えて床上浸水になった。

この地区もほとんどが2階に避難していたので自衛隊のヘリコプターで助け出された。

○ボランティア参加者数

8月6日は金山町で229名、8月7日は只見町で270名となっており、まだまだボランティア数が不足している状態。

宮城県の石巻や福島県内海岸部等の東日本大震災被災地で活動していた団体や個人等も多く見受けられたが、交通アクセスも悪いためか、水害の短期決戦ではまだまだ多くのボランティアを必要としている。

床下の泥が固まる前の作業が望ましいため、お盆時期までにどれだけボランティアが参集するか？

（7日には、過去の水害被災地である那須町消防団が25名のチームでボランティア参加、とちぎVネットも10・11日とボランティアバスを派遣。）